

第7回 POPSCONCERT 新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン

1. はじめに

我々浦和吹奏楽団(以下当団という)は第7回POPSCONCERT(以下本公演という)開催に当たり新型コロナウイルス感染防止のための最大限の対策を行う義務があると考えております。本ガイドラインは、国の方針を踏まえ、第一弾として策定された劇場・音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン等を参考に、クラシック音楽公演運営推進協議会がクラシック音楽公演の開催における新型コロナウイルス感染症予防対策として実施すべき基本的事項を整理して、発行している「クラシック音楽公演における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を参考に作成しています。また、本公演の数カ月前に開催されるクラシック演奏会等を参考にし、新型コロナウイルス感染拡大を防止していききたいと思います。

2. 感染防止のための基本的な考え方

当団は、会場の規模や特性、公演の形態、内容や演目等を十分に踏まえ、施設設置者、施設管理者、出演者、スタッフ等と協力して新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、必要な対策を講じます。特に、①密閉空間(換気の悪い密閉空間である)、②密集場所(多くの人が密集している)、③密接場面(互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる)という3つの条件(いわゆる「三つの密」)のある場では、感染を拡大させるリスクが高いと考えられ、こうした環境の発生を極力防止するなど、すべての主体が相互に感染回避に徹底して取り組むことが重要です。クラシック音楽公演の特徴として、会場となるコンサートホールは、各種法令等により高機能の空調設備の整備が義務付けられており、強制的な機械換気が可能な事や、公演中は、お客様がステージの一方方向を向いて、言葉を発する事なく、客席で静かに鑑賞するという、静謐なスタイルが特徴です。これらの特徴等も踏まえて以下の具体的な対策を行っていきます。

3. 出演者・スタッフの感染予防

- (1) マスクを着用するとともに、咳エチケットも実践する。
- (2) 日々の生活において、手指消毒又は手洗いを丁寧に行う。
- (3) 日々、十分な睡眠を取り、水分を摂取することをはじめ、健康管理に努める。
- (4) 楽器・楽譜を取り扱う者は手指消毒又は手洗い等日常的な感染防止対策に努める。
- (5) 本番1週間前から毎日検温を行い、当公演実行委員会に報告する。
- (6) 会場入りしたらまず手洗い、手指の消毒をする。
- (7) 公演までの1週間に、次のいずれかの症状がある出演者は、医師又は関係機関に相談し、その判断に基づき、当公演実行委員会は出演の可否を決定する。
 - 37.5度以上の発熱があった。
 - 咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・嗅覚障害、目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐の症状があった。
 - 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触があった。
 - 過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴、及び当該在住者との濃厚接触があった。

4. リハーサル、公演時の舞台上での対策

すでに当団で実践している新型コロナウイルス感染予防対策方法を継続して実施する。とともに施設管理者の指示のもとに適切な対策を実施する。

以下は当団で実施している一部です。

- (1) 開始時、終了時は確実にアルコール消毒を励行する。
- (2) 譜面台、椅子等、不特定多数の人が触る箇所は開始時と終了時に消毒を行う。
- (3) 練習以外の時間は必ずマスクを着用する。
- (4) 常に換気に配慮し、空調を利用する時も1時間に1回は換気をする。

5. ご来場いただくお客様の感染防止

当団は施設管理者の発している収容率等の方針のもと、可能な限り下記のような感染対策が実施されるよう、施設管理者の協力を得て、努めるものとする。尚、感染が疑われる者が発生した場合には速やかに連携が図られるよう、所轄の保健所との連絡体制を整える。

- (1) 手洗い・手指の消毒を励行するとともに、入場口付近及び各所に手指消毒剤を設置し、使用していただく。非接触型の体温計を配備し、お客様全員の体温を測定し、37.5℃以上のお客様には、ご来場を控えていただく。
- (2) 接客や対面での案内を行うスタッフはマスクを着用させ、必要に応じて手袋も使用する。
- (3) お客様が並ぶ可能性がある場所に、前のお客様から1m以上(可能なかぎり2m)離れることを求める案内を掲示する。
- (4) 不特定多数の人が触れる箇所(扉、蛇口、手すり、エレベーターボタン、テーブル、椅子等)を、本公演リハーサル時、終了後の二回は最低消毒する。
- (5) ホール内のお客様が入場するすべてのエリアで適切な換気を実施する。
- (6) 演奏中以外の時間帯すべての時間客席のドアを開放し換気をする。
- (7) お客様は会場内ではマスクを常時着用いただき、咳エチケットも実践いただく。
- (8) コロナウイルスの情勢により感染者が出た場合追跡をするためにお客様の個人情報をいただく。
- (9) 次の条件に該当する方は入場できないことをあらかじめ周知する。
 - ① 37.5度以上の発熱がある。
 - ② 咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・嗅覚障害、目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐の症状がある。
 - ③ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある。
 - ④ 過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴、及び当該在住者との濃厚接触がある。

6. 入場時の対応

- (1) 会場に入場するお客様が密集することを避けるため、間隔を開けて入場を行う。
- (2) 入場するお客様に、前の人から1m以上(可能なかぎり2m)離れることを求める案内を掲示する。
- (3) 入場後は、手洗い又は手指の消毒を行うよう周知する。
- (4) 原則として、公演プログラムの手渡しは行わず、所定の場所からお客様ご自身で取っていた

だく。

- (5) お客様に出演者の入待ちを控えていただき、プレゼントや花束等は控えるよう周知する。
- (6) 団員以外の楽屋の使用を禁止する。

7. 客席

客席は、感染状況を踏まえながら、公演中の接触をできるだけ避ける観点から、以下の対策を講じる。

- (1) 完全指定席として電子チケットとはがきチケットの2種類を使用する。座席の前5列は奏者との距離を保つため使用を禁止とする。
- (2) 感染予防に対応した座席対策を行い、左右1座席は確実に空ける配置を行う。

8. 開場時、休憩時間における対応

開場時や休憩時間は、接触を控える観点から、以下のようにアナウンスを行う。

(1) 開場時及び休憩時間

- マスクを着用し、会話は控える。
- ロビーやホワイエでは人との間隔を 1m 以上離し、会話はなるべく控えるようにする。
- ブラボー等の声援は控え、拍手のみとしていただくようにする。

9 当日、感染が疑われる人が出たときの対応

公演中に体調を崩されたお客様がいた場合は、以下のように行い、適切に対応できるように心掛ける。

- (1) 対応するスタッフは、マスクや手袋を着用のうえ対応する。
- (2) 速やかに、医療機関及び保健所へ連絡し、指示を受ける。
- (3) 保健所等の公的機関による聞き取りに協力し、氏名及び緊急連絡先を把握し名簿を作成する等、必要な情報提供を速やかに行えるよう体制を整える。
- (4) スタッフによって取得した個人情報は、漏洩することがないように十分な対策を講じる。

10 舞台裏、控室・楽屋等での出演者自身の対策

- (1) 大人数での楽屋の使用は避け常にドアは開放しておく。
- (2) 消毒液などを設置する。
- (3) 舞台裏、控室・楽屋では、マスクを着用する。
- (4) 控室や楽屋で飲食をとる際は、できるだけお互いの距離を保ち必要に応じて透明ビニールカーテン等の設置対策を検討する。
- (5) 飲料水は持参するよう周知する。

11 出演者やスタッフで感染が疑われる人が出たときの対応

9に準ずる

12 公演終了後の対応

- (1) お客様と出演者は客席またはロビー・ホワイエ等で接触するような行動は控える。
- (2) お客様からのプレゼントや花束等の受領は控える。
- (3) 舞台裏、控室や楽屋には長居せず、速やかに着替え等を済ませて、換気のよい場所へ移動するよう心掛ける。

本ガイドラインの策定にあたりましては、経済産業省、文化庁ならびに内閣官房コロナ対策推進室、政府のコロナ対策専門家会議の有識者の監修を経て策定した『クラシック音楽公演運営推進協議会発行のクラシック音楽公演における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン(令和2年6月1日)』を参考にさせていただきました。

ガイドライン策定に尽力いただいた皆さまにあらためて感謝の意を申し上げます。

以上